

平成29年 県政の軌跡

I 県民と親しみ、県外に進出した活動実績	1 頁
II 談合システムからの訣別と清潔な県政の実現	2
III 新しい県政の運営方法の導入	2
IV ひとを育む	
1. 未来を拓く子どもを育てる環境づくり	4
2. みんなが活躍できる社会づくり	6
V しごとを創る	
1. 県内企業の成長力強化	9
2. 農林水産業の振興	12
3. 観光の振興	16
4. 時代の潮流を踏まえた産業の新しい発展	18
VI いのちを守る	
1. 自然災害への備え	20
2. 医療の充実と健康の維持	21
3. 安全な社会の実現	22
VII くらしやすさを高める	
1. 快適な生活環境の実現	23
2. 支え合う福祉の充実	23
VIII 地域を創る	
1. 活力と魅力のあるまちづくり	25
2. 地域をつなぐネットワーク	27
○平成18年12月以降の本県への企業立地動向	28

I 県民と親しみ、県外に進攻した活動実績

	1期目	2期目	就任9年目	3期目 就任10年目	就任11年目
○県内から県庁を訪問して下さったお客様	(H18.12.19～H22.11.30) 860 グループ	(H22.12.1～H26.11.30) 811 グループ	(H26.12.1～H27.11.30) 122 グループ	(H27.12.1～H28.11.30) 156 グループ	(H28.12.1～H29.11.30) 156 グループ
○県外から県庁を訪問して下さったお客様	469 グループ	371 グループ	94 グループ	89 グループ	102 グループ
・国機関関係	101 グループ	100 グループ	16 グループ	22 グループ	16 グループ
・外国関係	52 グループ	60 グループ	13 グループ	22 グループ	19 グループ
○式典・大会出席挨拶	1,170 回	1,355 回	346 回	347 回	314 回
○講演・シンポジウム	114 回	125 回	26 回	46 回	43 回
○県内各地への出張回数	404 回	465 回	121 回	78 回	82 回
○県外各地への出張回数	263 回	251 回	68 回	56 回	65 回
・東京	102 回	93 回	34 回	26 回	29 回
・大阪	95 回	100 回	21 回	20 回	24 回
・他府県 (東京、大阪除く)	62 回	58 回	13 回	10 回	12 回
○海外への出張回数	6 回 (中国、スペイン、イタリア・フランス、ブラジル・ペルー、トルコ、中国)	10 回 (中国、アメリカ、香港・シンガポール、デンマーク・スペイン、タイ・オーストラリア、香港、インド、ブラジル、アメリカ、香港)	4 回 (インド・ベトナム、アメリカ・メキシコ・カナダ、イタリア、トルコ・スペイン)	3 回 (イタリア、インドネシア・香港、マレーシア・山東省)	3 回 (オークランド、台湾、ブラジル・アルゼンチン)
○公用車の走行距離	96,110 Km	104,240 Km	25,021 Km	25,713 Km	25,765 Km
○県内企業訪問	63 回	23 回	4 回	6 回	6 回
○国の要人との政策議論・要望	173 項目 234 回	175 項目 254 回	56 項目 68 回	46 項目 80 回	60 項目 46 回
○企業首脳トップセールス	158 回	160 回	38 回	54 回	42 回

II 談合システムからの訣別と清潔な県政の実現

○入札制度の見直し

1. 最低制限価格等の見直し(6月)

ダンピング受注の防止を図る観点から、建設工事の調査基準価格、建設工事にかかる委託業務の最低制限価格の一部を改定

2. 入札参加条件の見直し(6月)

- 成績評定が65点未満のもの(和歌山県発注工事に限る。)は、入札参加条件として求める工事の施工実績として認めない。
- 専門工事の主たる工種を自社施工しない場合には元請の技術者に更なる管理能力を要求するとともに、主たる工種に関する下請け次数を制限(1次まで)する。
- 小規模の専門工事においても、一定の品質確保と専門工事を直接施工する業者の参入を図る。

3. 総合評価における工事成績評定の評価対象期間の拡大(6月)

工事成績評定の評価対象期間を現状の3年間から4年間に拡大

4. 土木一式工事(Bランク)の総合評価落札方式の制度化(6月)

土木一式工事(Bランク)の2割程度において試行していた総合評価落札方式について、その工事成績は年々上昇しており、公共工事の品質確保に一定の効果が認められるため、制度として運用を開始

5. 建築設計等業務委託の入札参加条件の変更(7月)

県内業者の技術力向上を図るため、高度な技術を要する建築設計等に適用される業務区分Cの発注において設計共同体方式(設計JV)を導入し、県外業者の参加は、県内業者と構成する設計共同体に限定

6. 建築物の新築設計業務における総合評価落札方式の評価内容の変更(10月)

公共建築物の更なる質の向上に向け、建築物の新築設計業務における総合評価落札方式の技術評価項目にデザイン性と建設費縮減の評価項目を追加するとともに、価格評価の割合を引き下げ、設計者の技術力等をより高く評価する方式に変更

III 新しい県政の運営方法の導入

○ 知事が直接県民の皆様と意見交換する「和歌山県行政報告会」を開催 (平成29年実績:31回)

○ 和歌山県長期総合計画の策定(3月)

県内団体・市町村や有識者からの意見等を踏まえ、新長期総合計画策定本部において検討を行い、平成29年2月定例会における議決を得て、「『世界とつながる愛着ある元気な和歌山』～県民みんなが楽しく暮らすために～」をめざす将来像とする新たな長期総合計画を策定
(計画期間:平成29年度～平成38年度)

○ 「中期行財政経営プラン」の策定(3月)

「長期総合計画の実現」と「将来にわたる持続可能な行財政運営の確保」を両立するため、今後の行財政運営の方向性を定めた中期行財政経営プランを策定
(計画期間:平成29年度～平成33年度)

○ 「和歌山県公共施設等総合管理計画」の策定(3月)

県が所有又は管理する公共施設等について、長期的な視点で計画的に管理を行い、財政負担の軽減と行政サービスの維持・向上等を図るための行動計画として、県公共施設等総合管理計画を策定
(計画期間:平成29年度～平成38年度)

○ 組織改正(4月)

◇ 全国健康福祉祭(ねんりんピック)開催に向けた体制強化

平成31年度に本県で開催する全国健康福祉祭(ねんりんピック)の開催準備を着実に推進するため、ねんりんピック担当参事を配置するとともに、ねんりんピック推進室を設置

- ◇ 県立医科大学薬学部設置に向けた体制強化
平成33年4月の県立医科大学薬学部の開学をめざし施設整備を推進するため、医務課の公立大学法人班を公立大学法人室に再編
 - ◇ 和歌山県データ利活用推進センターの設置に向けた体制強化
平成30年4月に開設する県データ利活用推進センターの設置に向けた準備を着実に推進するため、企画総務課にデータ利活用推進センター準備班を設置
 - ◇ 移住・定住・交流を推進するための体制強化
過疎地域だけでなく都市部も含め県下全市町村一体となって本県への移住等をより強力に推進していくため、組織名を変更
 - ◇ 国民健康保険制度改革への対応のための体制強化
国民健康保険法の改正に伴い、平成30年度から県が国民健康保険の財政運営の責任主体となることを踏まえ体制を強化するため、国民健康保険室を国民健康保険課に再編
 - ◇ 公共インフラ施設の長寿命化対策を推進するための体制強化
トンネル、橋梁、ダム等の公共インフラ施設の長寿命化対策を推進するため、振興局建設部各課にまたがっていた管理業務と保全業務を集約し、管理保全課を設置
 - ◇ 近畿自動車道紀勢線(すさみ～串本)の用地取得を推進するための体制強化
東牟婁振興局串本建設部に近畿自動車道紀南高速事務所を設置
- 人事異動(4月～)
- ・ 中央省庁等への派遣を推進 1府7省5庁に20名
 - ・ 外国等への研修派遣を推進 6団体に12名
 - ・ 近隣府県等との交流を推進 京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、埼玉県和光市、関西広域連合に9名
 - ・ 民間等との交流を推進 8団体に14名
 - ・ 県と県内市町村等との人事交流を推進 10市町等に16名
 - ・ 大学院等への研修派遣を推進 9名
 - ・ 災害復旧応援(岩手県・熊本県) 8名
- 立入検査の事前通知手法の見直し
法令・条例に基づく立入検査等について、不正行為に対する抑止力を高めるため、「支障がない限り、無通知を原則」とする方針に改め、新たに44の立入検査を無通知とするよう手法を見直し
- 企業との包括的な連携・協力の推進
大塚製薬株式会社と、災害時における支援や健康長寿社会の推進、スポーツの振興等に関する包括協定を締結（7月）

IV ひとを育む

1. 未来を拓く子どもを育てる環境づくり

① 子どもが心豊かにたくましく育つ環境づくり

○ 和歌山県子供・若者計画の策定(3月)

子供・若者育成支援施策の一層の推進を図るため、子供・若者の育成についての総合的な指針として和歌山県子供・若者計画を策定（計画期間：平成29年度～平成33年度）

○ 子育て家庭への経済的支援

- ・多子世帯の経済的負担を軽減するため、小学校就学前までの保育料の無料化を行う「紀州3人っこ施策」を実施
- ・進学意欲と学力が高いにもかかわらず、経済的な理由により大学等への進学が困難な学生を給付型奨学金により支援

○ 出会い・結婚の支援

全県的に男女の出会いの場を提供するため、婚活イベントを県で主催するとともに「わかやま婚活応援隊」や「わかやま結婚センター」が企画する婚活イベントを支援

○ 妊娠・出産の支援

不妊専門相談や不妊治療にかかる医療費助成を実施

○ 妊娠・出産、子育てに関する相談・支援体制の充実

妊娠期から子育て期にわたる様々な相談に対し、保健師等専門職が必要な情報提供・相談等をワンストップで行う「子育て世代包括支援センター」の設置を推進

○ 仕事と子育ての両立支援

- ・放課後児童クラブやファミリー・サポート・センター事業など多様な保育事業を推進
- ・クラウドソーシングを利用した在宅就労（テレワーク）を紹介する「和歌山テレワークフェア」を県内2か所で開催

○ 待機児童の解消

- ・介護事業内保育所の施設整備支援など保育所整備を推進
- ・保育人材確保に向けた、返還免除付き貸付事業等を実施

○ 結婚・子育て応援企業同盟の発足

仕事と子育てが両立できる社会の実現に向け、行政と企業が連携し、結婚や子育てについての社会気運の醸成を図ることを目的に結成

○ 地域が協力して子供と家庭を支える体制づくり

- ・子供食堂など食事の提供を行う民間の取組を支援
- ・放課後ひとりで過ごさなければならない子供たちの居場所を公民館等に設け、学習支援等を実施
- ・学校と地域住民・保護者が連携・協力して学校運営に取り組むとともに、地域全体で子供たちの成長を支えるため、学校と地域をつなぐ「きのくにコミュニティスクール」の導入を推進

○ 青少年の健全育成

◇ 青少年自身がリーダーとなって地域の青少年を育成する循環システムを構築するための「リレー式次世代健全育成事業」を継続実施

◇ ネット依存の防止及び情報モラル教育を行う教員を養成するとともに、ネットパトロールによる有害情報対策を推進

・ネット指導教員養成講座の実施

受講者数：県内小・中・高等学校及び特別支援学校の教員など約1,000人

・ネット依存防止啓発セミナー・研修会の開催

開催日：3月11日（田辺市）、3月19日（和歌山市）

受講者数：セミナー77人、研修会58人

② 子どもたち一人一人が志高く未来を創り出す力を育む教育の推進

○ 確かな学力の向上

- ・若手教員等の授業力向上を図るため、優れた教育実践力をもつ教員が教員指導用資料(実践事例集・映像資料等)を作成し、研修会を実施
- ・優れた教育実践力をもつ退職教員をアドバイザーとして学校に派遣し、学力向上等に取り組む学校を支援
- ・県内公立小学校4・5年、県内公立中学校1・2年、義務教育学校前期課程4・5年、後期課程1・2年と特別支援学校小学部4・5年、中学部1・2年を対象に、個に応じた指導の充実と学習内容の定着のため、和歌山県学習到達度調査(国語、算数・数学、理科)を実施(10月)

○ 道徳教育の推進

和歌山県独自の道徳教科書「心のとびら」、「希望のかけはし」を活用し、道徳教育を推進

○ ふるさと教育の推進

ふるさと教育副読本「わかやま何でも帳」を県内中学1年生に配布するとともに、「わかやま何でも帳」を活用し、県内全ての中学校でふるさと教育を推進(5月)

○ 「高校生のための和歌山未来塾」を開催

2月 澤 和樹(東京藝術大学学長)	和歌山市
7月 坂本すが(公益社団法人日本看護協会前会長)	和歌山市
9月 貝谷郁子(料理研究家)	田辺市
11月 奥村公宏(東京大学宇宙線研究所准教授)	和歌山市
12月 田中章二(和歌山県体操協会理事長)	新宮市

○ 科学技術教育

- ・第5回きのくにジュニア科学オリンピックを開催(9月)
- ・第7回きのくに科学オリンピックを開催(11月、12月)
- ・きのくにロボットフェスティバル2017を開催(12月)

○ 学校給食等への県産農水産物7品目の提供

うめ 6月12日～6月23日	もも 7月3日～7月14日
かき 10月3日～10月27日	鯨肉 11月2日～2月15日
魚(アジ・サバ) 11月7日～2月23日	みかん 11月14日～11月24日
ジビエ 11月2日～2月21日	

○ いじめ問題対策

- ・「和歌山県いじめ防止基本方針」に基づく「いじめ問題対応マニュアル」を活用し、いじめを積極的に認知するとともに、組織的な対応を実施
- ・重大事態発生時等には、学校、教育委員会及び知事部局が総がかりで対応
- ・家族や学校等に相談できない児童・生徒のため、「知事メール」及び「教育長POST」でいじめ等の相談を受け付けるとともに、24時間対応の子供SOSダイヤルを設置
- ・いじめの早期発見・早期対応のため、全ての公立学校において、いじめアンケートや面談による実態把握を実施
- ・いじめ認知件数に対する解消率が98.1%で全国2位(平成28年度文部科学省調査結果)

○ 不登校対策

不登校問題の抜本的な対策を検討するため設置した有識者会議からの提言(平成28年度)を踏まえ、不登校問題に対応するための教員研修を開催するとともに、不登校児童生徒支援員を配置

○ 「国際人育成プロジェクト」の実施

- ・英語教員に対する指導力向上研修・TOEIC受験・語学力アップ研修
- ・中学3年生の英検受験(10月、11月)
- ・第6回和歌山県高校生英語ディベート大会の開催(10月)
- ・英語授業改善研究協議会による授業改善の推進
- ・生徒の海外留学支援事業の実施
- ・第6回わかやま高校生クイズin Englishの開催(11月)

○ アジア・オセアニア高校生フォーラム(7月、8月)

和歌山県内外、およびアジア、オセアニアの20の国と地域の生徒が一堂に会し、「防災」「環境」「観光・文化」「国際問題」等の課題について意見交換、プレゼンテーション等を実施

日程:7月29日～8月2日

場所:県民文化会館等

○キャリア教育等の推進

産業を支える人づくりのため、県内5工業高校(和歌山工業高校、紀北工業高校、箕島高校、紀央館高校、田辺工業高校)において企業と連携したさまざまな人材育成の取組を実施

○ 幼児期の教育の充実

幼児期の教育・保育に携わる職員の資質向上、小学校との連携・接続推進のため、幼稚園・保育所・認定こども園関係職員等合同研修を開催(年間20回開催)

○ 特別支援教育の充実

就学前から卒業後までの切れ目ない支援の充実の向けて、「つなぎ愛シート(個別の教育支援計画)」の活用促進

○ 高等教育機関の充実

- ・県が誘致した東京医療保健大学和歌山看護学部(和歌山市)の平成30年度の開設を文部科学大臣が認可(6月)
- ・公立大学法人和歌山県立医科大学、和歌山県及び和歌山市は、和歌山県立医科大学が平成33年度に開学を予定している薬学部の設置に向け、連携協定を締結(8月)
- ・平成31年4月に開学予定の和歌山信愛大学(仮称)設置に伴い、和歌山県、和歌山県教育委員会、学校法人和歌山信愛女学院は、相互の連携強化を図るため、連携協定を締結(10月)

2. みんなが活躍できる社会づくり

① 誰もが働きやすく、多様な人生を楽しめる社会づくり

○ 80歳現役社会の実現

- ・ボランティアやNPO活動など社会参加を希望する高齢者と、意欲のある高齢者を活用したい団体・企業をマッチングさせる「わかやま元気シニア生きがいバンク」を開設(7月)
- ・県民が手軽に楽しみながら運動習慣の定着を図れるよう、WEBサイトを活用した「わかやま健康ポイント」を開始(10月)

○高校生の県内就職促進

- ・産業を支える人づくりのため、県内5工業高校(和歌山工業高校、紀北工業高校、箕島高校、紀央館高校、田辺工業高校)において企業と連携したさまざまな人材育成の取組を実施
- ・全ての高校において企業経営者等による講話や企業見学会など企業との連携による取組を進め、生徒や保護者に地元企業の魅力を伝え、県内就職を促進
- ・応募前サマー企業ガイダンス2017(6月)
- ・経済5団体に対する新規高等学校卒業予定者の求人拡大に係る要望活動(6月)

○「若者サポートステーションWith You」

県内3か所の若年無業者の職業的自立を支援する地域若者サポートステーションに、若者のあらゆる相談を受け付ける総合窓口を併設し、就労支援のほか、健康面や家庭面等を含む包括的な支援を、地域の関係機関と連携・協力して実施

○和歌山県就活サイクルプロジェクト

結婚や出産等で離職した女性、定年退職された方、都会で働く人等に再就職等に関する情報を届け、2ヶ月を「就活強化月間」と定め、4月の就職を目指す和歌山独自の就活サイクルを構築

- ・就活サイクルプロジェクトの開始を周知するため、キックオフイベントとして講演会を開催(7月)
- ・再就職を支援する施設「和歌山県再就職支援センター」を開設(7月)
- ・就活サイクルプロジェクト参画企業の採用情報を再就職支援センターのホームページに掲載(10月～)

○ 女性活躍企業同盟の発足(10月)

女性が継続して働き、その能力を十分に發揮できる社会の実現に向け、企業及び団体が女性活躍のために職場環境の整備促進を図ることを目的に結成

○ 和歌山県男女共同参画基本計画の策定(3月)

男女共同参画社会基本法等に基づき、職場、家庭、地域などあらゆる分野における男女共同参画を一層推進するため、第4次となる男女共同参画基本計画を策定（計画期間：平成29年度～平成33年度）

② 共に支えあう地域社会づくり

○ NPO活動の支援

県民の主体的な地域活動への参加を促進するため、NPOサポートセンターにおいて、NPOの設立・運営の相談、NPO法改正講座（9月）・NPO基礎講座（10月）・NPOのための資金調達講座（11月）等を実施。また、情報誌の発行（奇数月・年6回）、出張相談（毎月4回）等を実施

○ 知事の台湾訪問（6月）

県産品の販路拡大と観光客誘致を目的としたトップセールスを行うとともに、和歌山にゆかりのある文化施設「紀州庵」において観光セミナーを開催。本県と交流のある国立台湾大学図書館や国立国父記念館を視察した後、台湾経済部や日本台湾交流協会など関係機関を表敬訪問

○ 知事のブラジル・アルゼンチン訪問（10月、11月）

◇ ブラジル関係（日程：10月29日～31日）

和歌山県民がブラジルに移住してから100周年となることを記念したブラジル和歌山県人会の式典に出席。本県出身の方やその子弟、約500名の方々と今日の繁栄を築かれた先人の功績・遺徳を顕彰

◇ アルゼンチン関係（日程：10月31日～11月1日）

日亜両国の文化を継承する人材の育成を目標として運営されている学校を視察したほか、在アルゼンチン和歌山県人会と交流を図り、満80歳を迎えた県人会員には祝状を贈呈

③ 健康で心豊かにすごせる社会づくり

○ みんなで実践！健康づくり運動ポイント事業の実施

県民が手軽に楽しみながら運動習慣の定着を図れるよう、WEBサイトを活用した「わかやま健康ポイント」を開始（10月）（再掲）

○ 第32回全国健康福祉祭（ねんりんピック）開催に向けた準備

・ねんりんピック紀の国わかやま2019実行委員会設立総会・第1回総会を開催し、基本構想等を承認（6月）

〔名称：第32回全国健康福祉祭和歌山大会（愛称：ねんりんピック紀の国わかやま2019）〕

〔テーマ：あふれる情熱 はじける笑顔〕

〔会期：2019（平成31）年11月9日（土）～12日（火）の4日間、21市町で開催し、27種目を実施〕

・カウントダウンボード点灯式の開催（11月）

○ さあ スポーツだ！プロジェクトの実施

・第1回わかやまリレーマラソン～パンダRUN～を田辺スポーツパークで開催し、217チーム約1,800人が参加（10月）

・8競技のマスターズスポーツ体験会を県内各施設で実施し、約450人が参加

○ ワールドマスターズゲームズ2021関西開催に向けた準備

ワールドマスターズゲームズ2021関西大会PR及び情報収集を目的に、オークランド市長との面談や国際マスターズゲームズ協会及び国際競技団体との意見交換を行うとともに、オークランド大会の現地視察を実施（4月）

○ 第16回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会開催（2月）

○ オリンピック等のキャンプ誘致

・競泳日本代表選手及び候補選手（トビウォジヤパン）が秋葉山公園県民水泳場で合宿を実施（6月）

・女子ラグビー15人制日本代表が上富田スポーツセンターで2017ワールドカップ直前合宿を実施（7月）

・女子ラグビー7人制日本代表が上富田スポーツセンターで強化合宿を実施（8月）

・競泳カナダナショナルチームと競泳日本ナショナルチームが秋葉山公園県民水泳場で強化合宿を実施（11月）

- 第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」において、本県選手団は26位に(10月)
 - 第72回国民体育大会(愛顔つなぐえひめ国体)成績
 - ・男女総合成績(天皇杯) 934.5点 第26位
 - ・女子総合成績(皇后杯) 509点 第28位
- 和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト
 - 本県から将来オリンピック等の国際舞台で活躍できる競技者を輩出することを目的とし、現在104名のゴールデンキッズを養成
- 平成29年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)ヨット競技大会開催(8月)
 - 高校生スポーツの最大の祭典であるインターハイを南東北3県(山形県、宮城県、福島県)と本県ではヨット競技大会を開催(固定開催は3回目)
 - 会場:和歌山セーリングセンター 選手・監督:450名 観客数:1,750名
- 生涯学習機会の充実
 - 「県立図書館・県立紀南図書館」の利用サービス向上のため、開館時間を9時からに繰り上げ(4月)
- 第71回和歌山県美術展覧会(11月、12月)
 - 洋画・日本画・書・写真・工芸・彫塑・華道の7部門からなる県内最大の公募による美術展覧会を巡回開催
 - 上富田展 11月17日～21日 場所 上富田文化会館
 - 新宮展 11月25日～29日 場所 新宮市立総合体育館
 - 橋本展 12月2日～6日 場所 和歌山県立橋本体育館
 - (参考)本展 平成30年1月10日～21日 場所 和歌山県立近代美術館、県民文化会館
- 第3回和歌山県ジュニア美術展覧会(11月、12月)
 - 絵画・書・立体の3部門からなる小・中学生を対象とした公募による美術展覧会を巡回開催
 - 上富田展 11月17日～21日 場所 上富田文化会館
 - 新宮展 11月25日～29日 場所 新宮市立総合体育館
 - 橋本展 12月2日～6日 場所 和歌山県立橋本体育館
 - (参考)本展 平成30年1月24日～28日 場所 和歌山県立近代美術館
- 南葵音楽文庫プレオープンセレモニー(12月)
 - ・県立図書館内に南葵音楽文庫閲覧室を設置し、プレオープン
 - ・プレオープンを記念し、和歌山県民文化会館にて読売日本交響楽団による特別公演を開催
- 国民文化祭開催に向けた準備
 - ・平成33年度(第36回)国民文化祭開催地に和歌山県が内定(1月)
 - 開催地の内定を受け、文化芸術各分野の自主的活動の強化促進と連絡調整を図るため、わかやま文化芸術協議会を設立(2月)
 - ・国民文化祭開催に向けての機運醸成を図るため、「国民文化祭キックオフイベント」を開催(3月)
- ④ 人権尊重社会の実現
- 講演会「企業における人権」(1月)
 - 県内の中小企業等に対して、企業の社会的責任としての人権尊重の理念を普及させ、人権意識の涵養を図るため、講演会を田辺市文化交流センター及び和歌山ビッグ愛において開催
 - 内 容 ①セクシュアルマイノリティの人権課題と支援のあり方
②情報セキュリティと人権
- 「ふれあい人権フェスタ2017」開催(11月)
 - 人権に関する問題について、理解と関心を深め、人権意識の普及・高揚を図ることを目的に開催
 - ・人権擁護活動を行うNPO等の団体によるステージイベントやブース出展、人権の詩(こころのうた)表彰式などを実施
 - ブース出展:176団体、 参加者:6,800人
- 「和歌山県人権尊重の社会づくり協定」新規締結(12月)
 - 県内の企業、NPO等の団体と県が協働することにより、人権啓発活動を積極的に展開するため、「和歌山県人権尊重の社会づくり協定」を締結
 - 新規締結団体 10団体

V しごとを創る

1. 県内企業の成長力強化

① 中小企業の競争力強化

- 先端的な技術開発・実用化への支援を行う「先駆的産業技術研究開発支援事業」を実施

支援実績: 平成28年度 16社(1.0億円) → 平成29年度 15社(0.7億円)

- クラウドファンディングの活用支援

- ・クラウドファンディングを活用した新商品・新サービス開発を支援するため、支援プロジェクトを認定
認定実績: 平成28年度 3件、平成29年度 10件
- ・クラウドファンディングの活用支援に向けたセミナーを開催(8月)

- 企業のものづくり現場の改善支援

(公財)わかやま産業振興財団に「わかやまものづくり経営改善スクール」を開講し、インストラクターや県内企業の現場リーダーを養成(スクール受講者: 15名)

- わかやま企業応援ナビ(12月)

国、県等の散在する産業施策を一発検索できるWEBサイト「わかやま企業応援ナビ」がオープン(12月)し、県職員だけでなく、県内金融機関や関係団体の担当者にも当ナビを企業訪問ツールとして活用いただき、県全体で積極的な企業支援活動を展開

- 「わかやま産品販路開拓アクションプログラム2017」を策定(4月)

- ジェトロ和歌山貿易情報センターの開設(10月)

県内企業の海外ビジネス展開を支援するため、誘致を求めていたジェトロの貿易情報センターが県庁内にオープン

- 首都圏での販路開拓を行う県内中小企業を支援するため、活動拠点となる「わかやまビジネスサポートセンター」を展開(8社入居)

- 大型展示会・商談会等の集団出展

◇ 見本市等への出展

- ・「第46回インターネプコン・ジャパン」への集団出展(1月)

県内の中小企業が自社製品や技術をPRし、販路開拓のきっかけとするため、エレクトロニクス機器に関する製造技術・実装技術の見本市への集団出展を実施(出展企業 5社)

- ・「フランス・メゾン・エ・オブジェ2017」への集団出展(1月)

県内企業の優れた技術・製品の販路開拓、販売促進を支援するため、世界最大級のインテリア・デザイン関係見本市に集団出展を実施(出展企業 4社)

- ・「イタリア・ミラノウニカ」への集団出展(7月)

県内ニット及びレザー企業の優れた技術・製品の販路開拓、販売促進を支援するため、イタリアメーカーを中心とした生地素材、テキスタイルの世界最大規模の見本市に集団出展を実施(出展企業 4社)

- ・「香港・ハウスウェア・フェア2017」への集団出展(4月)

県内企業の優れた技術・製品の販路開拓、販売促進を支援するため、アジア最大級の日用品見本市に集団出展を実施(出展企業 1社、2組合)

- ・「第96回東京レザーフェア」への集団出展(5月)

年2回開催される国内最大の皮革関係見本市に出展し、新たな販路開拓及び新製品の企画開発のための最新流行商品の情報収集を実施(出展企業 9社)

- ・「第21回機械要素技術展」への集団出展(6月)

県内の中小企業が自社製品や技術をPRし、販路開拓のきっかけとするため、軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械要素や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた展示会への集団出展を実施(出展企業 12社)

- ・「オールチャイナレザーエキシビション」への集団出展(8月)

中国上海で開催されたアジア最大級の皮革見本市であるオールチャイナレザーエキシビションに和歌山ブースを出展。優れた製品のPRを実施(出展企業 9社)

- ・「第84回東京インターナショナル・ギフト・ショーオフ 2017」への集団出展(9月)
県内の中小企業が持つ製品をPRし、販路開拓のきっかけとするため、パーソナルギフトや生活雑貨の国際見本市への集団出展を実施(出展企業 10社)
- ・「IFFT/インテリアライフスタイル 2017」への集団出展(11月)
県内の中小企業が持つ製品をPRし、販路開拓のきっかけとするため、国内外からの家具・デザイン・イタリア製品が一堂に会する国際見本市への集団出展を実施(出展企業 6社)
- ・「マニュファクチャリング・インドネシア2017」への集団出展(12月)
ジャカルタで開催される国際機械展示会である「マニュファクチャリング・インドネシア2017」に和歌山県ブースとして集団出展を実施(出展企業 4社)
- ・「第97回東京レザーフェア」への集団出展(12月)
年2回開催される国内最大の皮革関係見本市に出演し、新たな販路開拓及び新製品の企画開発のための最新流行商品の情報収集を実施。(出展企業 9社)

◇商談会等の開催・実施

- ・台湾ビジネスミッション(6月)
- ・インドネシアビジネスミッション(10月)
- ・ミサワホーム株式会社との商談会(10月)

○ eコマース(電子商取引)の推進

- ・eコマース市場への新規参入を図るためのシンポジウムを開催(7月)
- ・ネット販売による売上拡大、競争力強化を図るセミナーを開催(10, 11月)

○ 和歌山県優良県産品(プレミア和歌山)の推進

- ・平成28年度(第9回)プレミア和歌山推奨品認定(2月)
安全・安心を基本に、幅広い分野で優れた県産品等を“和歌山らしさ”“和歌山ならでは”的視点で推奨する、和歌山県優良県産品『プレミア和歌山』推奨制度の第9回認定品を発表
認定品: 55品目 41事業者

〔	製造物分野 42品目(加工食品34品目、伝統的工芸品1品目、産業製品7品目)	〕
〔	生鮮物分野 13品目(農産物7品目、畜産物・ジビエ5品目、特用林産物1品目)	〕
- ・阪急梅田駅に物産店舗「わかやま紀州館」を期間限定で設置し、プレミア和歌山認定商品等を販売(10月)
- ・首都圏プレミア和歌山PRイベントの開催(11月)
メディア関係者など情報発信力のある方を対象に、プレミアパートナー・事業者を交えたトークや認定された食材の料理の試食等により、プレミア和歌山の魅力を発信するイベントを開催
会場: ホテル椿山荘東京

○ 企画・提案型のビジネスモデルを目指す産地企業の取り組みを、企画段階から販売促進まで3年間一貫して支援する「わかやま地場産業ブランド力強化支援事業」を実施
平成29年 採択 9企業

○ わかやま産品魅力再発見事業

三越伊勢丹バイヤーとのコラボによる県産品のブラッシュアップを実施

○ 中国の「和歌山」商標出願に異議申立(6月)

県は、中国・台湾・香港において、「和歌山」「紀州」の商標監視を行っており、中国において「紀州山」の商標が出願され、公告されていることが判明したため、中国商標局に対し異議申し立て

○ 事業承継の促進

- ・円滑な事業承継を促進するための専門家によるサポート体制を整備
- ・事業承継計画を定めた企業に優遇金利で融資する事業承継融資制度を創設
- ・事業承継対策の重要性を啓発するためのセミナーを開催(11月)

○ 中小企業向け融資制度の見直しを行い、中小企業者の資金繰りを支援

- ・「新規開業資金(創業サポート枠)」の利率を期間限定で大幅引き下げ
- ・「成長サポート資金(チャレンジ応援枠)」の対象者を拡大
- ・「成長サポート資金(人材投資枠)」の要件を大幅に緩和し、限度額を引き上げ
- ・「成長サポート資金」に「事業承継支援枠」、「観光振興枠」を創設

- ・「資金繰り安定資金」の対象拡大

○中小企業の省エネ対策を促進

- 中小企業の省エネ対策を促進するため、省エネ設備の導入に要する経費の一部を補助する「中小企業省エネ対策促進事業費補助制度」を創設
 ・支援実績 19社

② 新たな産業の創出

○スタートアップ創出支援

- 志高い新たな創業者や既存企業の新事業展開(第二創業)などを目指す新たな担い手を育成するため、ベンチャーキャピタル等から構成されるスタートアップ創出支援チームと創業者・第二創業者とのマッチングを実施
 ・応募社13社、ファイナリスト9社

○わかやまヘルスケア産業革新プラットフォーム

- 健康増進や健康管理など健康寿命延伸に繋がる産業の創造・振興のため、産官学金のヘルスケア関係者で構成する組織「わかやまヘルスケア産業革新プラットフォーム」を設立(10月)

○産業技術総合研究所との連携協定締結(2月)

- 和歌山県と国立研究開発法人産業技術総合研究所が、新産業創出等の企業支援における相互協力を促進するため、協定を締結

○第5期わかやま塾の開講

- 将来、和歌山県を支え、世界にはばたく人材を育成することを目的に、50歳未満の県内企業の経営者、幹部、後継者等を対象にした「わかやま塾」を開講(塾生:55名)

○企業誘致の推進

- ・平成29年1月以降新たに18社の企業立地が決定(30頁参照)
- ・ワーケーション等に関する東京フォーラム(8月)
 情報通信技術を活用し、リゾート地等で働きながら休暇等をとる新しい働き方であるワーケーションに関するフォーラムを東京で開催し、ワーケーションの魅力と本県がその適地であることを発信
 首都圏大手企業の取締役等132名が参加

○地域未来投資促進法に基づく和歌山県基本計画を策定(9月)

- 企業が工場等の新設・増設や設備投資を行う際に、一定の要件を満たした場合に税の優遇等による支援を受けることができるよう、県及び県内市町村が連携して、地域未来投資促進法に基づく和歌山県基本計画を策定し、国から第1号として認定

③ 産業を支える人材の育成・確保

○第10次職業能力開発計画策定(5月)

- 産業技術専門学院の訓練科の見直しなど今後の職業能力開発施策の基本となる第10次和歌山県職業能力開発計画を策定(計画期間:平成29年度～平成33年度)
 (自動車工学科定員:和歌山校・田辺校各5人増、田辺校:情報システム科新設)

○若者の県内就職・定着の促進

- ・産業を支える人づくりのため、県内5工業高校(和歌山工業高校、紀北工業高校、箕島高校、紀央館高校、田辺工業高校)において企業と連携したさまざまな人材育成の取組を実施(再掲)
- ・全ての高校において企業経営者等による講話や企業見学会など企業との連携による取組を進め、生徒や保護者に地元企業の魅力を伝え、県内就職を促進
- ・応募前サマー企業ガイダンス2017(6月)
- ・経済5団体に対する新規高等学校卒業予定者の求人拡大に係る要望活動(6月)
- ・大学と就職支援協定を締結(同志社大学、追手門学院大学、近畿大学、京都産業大学)
- ・優秀な理工系・情報系人材を確保できるよう、県内企業に就職した学生に奨学金の返還金を助成

○産業技術専門学院の機能強化

- ・和歌山校:デジタルものづくり訓練を強化するため、マシニングセンタ(11月)や3DCAD(10月)を配置
- ・田辺校:自動車工学科の定員増に対応するため、実習場の改修設計完了(11月)

○「紀の国わかやま戦略的成長力強化分野雇用創造プロジェクト」を推進

第二次和歌山県産業技術基本計画で重点支援する戦略的分野を中心に、企業に対する事業拡大や人材確保の支援、及び求職者に対する就労支援等を実施し、新たな雇用を創出
・雇用創出目標 3年間で341人

○ 若者・女性の雇用対策の推進

- ・第2回わかやま就職フェア(2月)
- ・わかやま就職フェアin大阪(3月)
- ・わかやま就職フェアin東京(3月)
- ・Uターンフェア(4月、8月)
- ・和歌山県U・Iターン就職フェアin大阪(6月)
- ・わかやまテレワークフォローアップ研修(7月)
- ・紀の国ものづくり就職フェア(9月)
- ・わかやまテレワークフェア(11月)
- ・わかやま就職フェア2017(11月)
- ・UIターン就職セミナー「和歌山で就職しよう!」(12月)

○ 多様な働き手の確保(和歌山就活サイクルプロジェクト)(再掲)

結婚や出産等で離職した女性、定年退職された方、都会で働く人等に再就職等に関する情報を届け、2月を「就活強化月間」と定め、4月の就職を目指す和歌山独自の就活サイクルを構築
・就活サイクルプロジェクトの開始を周知するため、キックオフイベントとして講演会を開催(7月)
・再就職を支援する施設「和歌山県再就職支援センター」を開設(7月)
・プロジェクト参画企業の採用情報を再就職支援センターのホームページに掲載(10月~)

2. 農林水産業の振興

① 農業の振興

○ 「和歌山県農水産物・加工食品の販売促進戦略 アクションプログラム2017」を策定(4月)

○ 県産果実の輸出拡大

米国向け柿輸出が10月に解禁され、和歌山県産柿を日本から初輸出。在ロサンゼルス日本国総領事館主催のセレブレーションでプロモーションを実施(12月)

○ 海外展示会への出展等

◇海外食品見本市等に出展

- ・FOOD TAIPEI2017に出展(県内4業者が参加)(6月)
- ・香港フードエキスポ2017出展(県内6業者が参加)(8月)
- ・シンガポールの日本食品見本市「FOOD JAPAN2017」に出展(県内4業者が参加)(10月)

◇海外百貨店等で和歌山フェア開催・プロモーション実施

- ・台湾でのわかやまフェア開催(2月)
- ・香港、シンガポール、マレーシアにおける青梅のプロモーション実施(6月)
- ・台湾での県知事トッププロモーション(6月)
- ・台湾での桃フェア開催(7月)
- ・タイにおける柿のプロモーション実施(10月)

○ 国内大型展示会への出展等

◇県産品のトップセールスを実施

- ・第11回わかやま産品商談会in大阪(2月)
- ・「梅の日」(6月6日)東京都中央卸売市場(大田市場)において梅をPR(6月)
- ・大阪市中央卸売市場において桃をPR(7月)
- ・大阪市中央卸売市場において有田みかんをPR(11月)

◇国内食品見本市等に出演

- ・第51回スーパー・マーケット・トレードショー2017に出展(県内33業者が参加)(2月)
- ・第42回FOODEX JAPAN 2017に出展(県内26業者が参加)(3月)
- ・外食ビジネスウイーク2017に出展(県内16業者が参加)(8月)
- ・第7回通販食品展示商談会に出展(県内8業者が参加)(9月)

◇商談会を開催

- ・「小売・卸売業者との県内商談会」の開催(1月、10月、11月)
- ・三井食品「商品内覧会」に出展(3月)
- ・三井食品「フードショー2017」に出展(6月)
- ・海外バイヤー及び国内輸出商社、現地小売店との交流商談会(JETROと共に共催)(8月)
- ・国内輸出商社等との商談会(8月)
- ・香港飲食業協会との交流・PR商談会(10月)

◇百貨店等で和歌山フェア開催

- ・藤崎百貨店 第5回「伊勢志摩・紀州・名古屋フェア」開催(1月)
- ・山形屋百貨店「第6回いいね!納得!紀伊半島 三重・和歌山・奈良の物産展」開催(2月)
- ・小田急百貨店「全国うまいものめぐり~三重・和歌山特集~」開催(2月)
- ・そごう神戸店「和歌山の美味フェア」に出店(3月)
- ・高島屋日本橋店「和歌山県と諸国味紀行」に出店(3月)
- ・京北スーパー柏店「わかやまフェア」開催(3月)
- ・東京ガーデンテラス紀尾井町「わかやまフェア」開催(3月)
- ・そごう横浜店「和歌山フェア」に出店(6月、11月)
- ・JR大阪駅「みのりみのるマルシェ」開催(7月、10月)
- ・阪急うめだ本店で「和歌山の桃フェア」開催(7月)
- ・阪急うめだ本店で「三重・和歌山のうまいもの市」に出店(10月)
- ・阪急梅田駅に物産店舗「わかやま紀州館」を期間限定で設置し、プレミア和歌山認定商品等を販売(10月)
- ・銀座三越「和歌山フェア」開催(11月)
- ・銀座三越「みのりみのるマルシェ」開催(11月)
- ・伊勢丹新宿本店「和歌山フェア」開催(11月)
- ・クイーンズ伊勢丹でみかん・柿の販売促進(11月)
- ・三越日本橋本店で水産物フェア「和歌山県特集」開催(11月)
- ・東京海上日動本社「和歌山物産展」開催(12月)

◇消費者向け食イベントに出演

- ・ふるさと祭り東京2017(1月)
- ・'17食博覧会 大阪(4月~5月)

○ 食品メーカー等との協働による需要の開拓

- ・アサヒ飲料株式会社が県産「南高梅」果汁を使用した「三ツ矢梅」を全国発売(2月)
- ・資生堂パーラーにて和歌山県のいちご「まりひめ」を使ったパフェ提供(2月)
- ・カフェコムサ銀座店にて「まりひめ」を使ったタルトとパフェを提供(3月)
- ・サントリー酒類株式会社と取引のある外食店を対象とした和歌山県訪問ツアー商談会を開催(3月)
- ・資生堂パーラーにおいて和歌山県水産物を使ったコース料理が登場(4月)
- ・カフェコムサにおいて、和歌山県産ウメ「つゆあかね」のソーダが販売(5月)
- ・資生堂パーラーにて和歌山県の桃、いちじくを使ったパフェ提供(7月)
- ・関西空港でのPeach Aviation株式会社とのコラボで和歌山県産桃のPRイベント開催(7月)
- ・和歌山食材テロワール事業として、エコール辻大阪の学生による県農林大学校での柿園地見学・「紀の川柿」の収穫体験・交流会を実施(7月、11月)
- ・株式会社ローソンと県農林大学校学生との共同開発商品「梅と生姜のしらす焼おにぎり」発売(9月)
- ・中国料理南国酒家「おいしいものの和歌山フェア」を開催(9月、10月)

- ・ ホテル日航関西空港レストランにて和歌山フェアを開催(10月)
 - ・ 株式会社クボタ社員食堂において和歌山フェアを開催(10月、11月)
 - ・ サントリー酒類株式会社と取引のある外食店を対象とした商談会を開催(11月)
 - ・ カゴメ株式会社から「野菜生活100有田みかんミックス」を発売(11月)
 - ・ Family Mart でコンビニスイーツ「わかやまポンチ」を期間限定販売(11月)
 - ・ 株式会社伊藤園が和歌山県産「みかん」果汁を使用した「摘みたてみかんを搾ってそのまま瞬間パックしました。」を発売(11月)
 - ・ Tastes of JAPAN by ANA WAKAYAMA キャンペーン実施(12月)
 - ・ カフェコムサにおいて、JA紀北かわかみの「あま熟富有柿」を使ったケーキを提供(12月)
- 紀州金山寺味噌が地理的表示(GI)保護制度に和歌山県産品として初めて登録(8月)
- わかやま農産物安心プラス事業を推進
平成29年度認証 13団体 31品目(果樹11、野菜19、米1)
- 「ウメ輪紋ウイルス」の感染確認、対策実施(4月～11月)
- 活かそう、つなごう！わかやまジビエ
 - ・ 料理人向け(7月)及び一般の方向け(9月、11月)のわかやまジビエ料理講習会を開催
 - ・ 学校給食へのジビエ提供(平成29年11月～平成30年2月) 県内小学校等 290校
 - ・ わかやまジビエ出前授業の実施(平成29年12月～平成30年2月) 県内小中学校 9校
 - ・ 「わかやまジビエフェスタ2017－2018」(平成29年12月～平成30年2月)を開催
県内の飲食店・宿泊施設等50店舗でジビエ料理を楽しんでもらうイベントを実施
- ロボット・ICTを活用したスマート農業の推進
 - ・ 農作業の省力化や農作物の品質向上等のため、ロボットやIoTなど先端機器の導入を支援
 - ・ ドローンを活用した傾斜地かんきつ栽培の省力技術開発に関する研究を果樹試験場で開始(4月)
 - ・ スマート農業の先進国オランダのワーゲニングセン大学へ職員を派遣(5～11月)
- 農地流動化の推進
農地中間管理機構と本県独自に各地域に設置した農地活用協議会の一体的な取組を加速させ、平成26年からの累計で281haの農地賃借を仲介
- 農林水産業競争力アップ技術開発 平成29年度新規研究テーマを決定(3月)
業務用野菜安定生産技術の開発など10テーマを決定
- 早生甘柿「紀州てまり」を育成し、新品種として登録出願(3月)
果樹試験場かき・もも研究所において果皮障害が少なく10月下旬に収穫できる甘柿の新品種を開発
- 「まりひめプレミアム」の出荷(12月)
県オリジナル品種「まりひめ」を味、大きさ、熟度で厳選した「まりひめプレミアム」の2年目の出荷開始
- みかん厳選出荷の取組推進
温州みかんの市場評価を高めるため、JAグループと連携し、厳選出荷の取組を推進
【H27厳選出荷取組後、産出額(H28:308億円)が2年連続で全国1位、販売単価(H28:255円/kg←H26:191円/kg)が2年連続上昇】
- 熊野牛品質向上対策を推進
第11回全国和牛能力共進会(宮城大会)への出品(9月)
- 有害鳥獣対策
野生鳥獣による被害を減少させるため、捕獲、防護、育成、環境整備を総合的に推進
 - ・ 新たな捕獲手法の確立に向けたニホンジカの夜間銃猟を実施(2月～3月)
 - ・ 個体数調整を行う管理捕獲をニホンジカ(4月～5月)及びニホンザル(通年)で実施
 - ・ 狩猟者育成に向け、狩猟の魅力を伝える研修会(7月)や実際の狩猟現場を体験する研修会(1月、2月、11月、12月)を開催するとともに、狩猟免許取得を支援

○ 家畜堆肥利用体制の構築

- ・家畜ふん堆肥を有効活用し、堆肥流通の円滑化を図るための地域内流通システムを整備
- ・マニアスプレッダー実証展示会の開催(11月)

○企業のふるさと

- 企業と農村地域が協働し、農産物作り等を通じて農地の保全や農村の活性化を図る取り組みを実施
 - ・「伊藤忠商事株式会社」(かつらぎ町天野地区):
 - ①田植え、②地域交流施設の清掃作業を実施(5月)
 - ①稲刈り、②地域交流施設の清掃作業を実施(9月)
 - ・「関西電力労働組合和歌山地区本部」(田辺市本宮町発心門地区):
 - 手植えにより田植え作業を実施(5月)
 - 稲刈り作業を実施(9月)
 - ・「井関農機株式会社」(橋本市西畠地区):
 - 井関農機の機械力を駆使し畑ごんぼの栽培ほ場準備と播種作業を実施(4月)
 - 収穫専用機械を使用した省力・軽労な畑ごんぼの収穫作業を実施(12月)

② 林業の振興

○ 森林ゾーニングによる施策の選択と集中の強化

- 森林保全を行う「環境林」と素材生産を行う「経済林」に区分し、経済林のうち、さらに集中投資を行う「重点エリア」を設定する森林ゾーニングを実施
 - ・森林ゾーニングの運用を開始(4月)
 - ・「和歌山県森林・林業総合戦略～新・紀州林業への挑戦～」を発表(7月)

○ 低コスト林業の推進

- 路網整備や高性能林業機械の導入、架線系作業システムの確立等による低コスト林業を推進
 - ・急傾斜地における一貫作業の低コスト化・省力化再造林プロジェクト研修会を開催(6月)

○ 大消費地への販売促進

- ・「木と住まいの大博覧会」(2月・東京ビッグサイト、9月・京都パルスプラザ)に和歌山県ブースを出展して紀州材製品のPRを実施
- ・優良紀州材展を東京中央木材市場(千葉県)で開催(3月)
- ・紀州材・家づくりフェアをイオンモールりんくう泉南(7月)、ららポート和泉(10月)で開催
- ・大紀州材展を丸宇木材市場(千葉県)で開催(10月)
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の「日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビルディングプラザ～」で選手村エントランス施設の一部に紀州材(スギ・ヒノキ:約50m3)の採用決定(10月)

○ 建築物の木造・木質化推進

- ・わかやま木の家コンテスト2016表彰式を開催(2月)
- ・平成29年度紀州材ベストユーザー賞表彰式を開催(11月)
- ・県内建築士を対象とした「きのくにわかやま木造塾」を開催(12月)

○ 「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催(5月)

森林と樹木を守り、または育てることに関する県民の理解をさらに深め、緑豊かな和歌山を将来に引き継いでいくため、第6回となる記念イベントを花園新子森林公園(かつらぎ町)にて開催

○ 「企業の森」参画企業・団体の誘致

- ・「企業の森」シンポジウム in OSAKAの開催(1月)
場所:リーガロイヤルNCB(大阪市北区中之島)
「JTの森 中辺路」(田辺市中辺路町近露・野中地内)
 - ・2017年度 経団連「環境基礎講座」【生物多様性編】での講演(9月)
場所:経団連会館 会議室(東京都千代田区大手町)
 - ・アジアを代表する環境・エネルギーの総合展示会「エコプロ2017」に「企業の森」を出展(12月)
 - ・新規に参加する2企業を含め「企業の森」が4箇所追加
- (追加)花王株式会社「花王の森 おいし」(1月)
- (追加)株式会社NTN紀南製作所「NTN紀南 卍妻「和」の森」(1月)
- (新規)日本ルナ株式会社「日本ルナの森」(3月)
- (新規)大東化成工業株式会社「笑顔の森-DAITO KASEI-」(12月)

○ 企業の森における森林保全活動

- ・花王株式会社和歌山工場「花王の森 おいし」森林保全活動
- ・株式会社フラットフィールド・オペレーションズ「感謝の森」森林保全活動
- ・パナソニック株式会社エコソリューションズ社「パナソニック・田辺龍神ながきの森」森林保全活動
- ・和歌山県印刷工業組合「熊野再生の森」森林保全活動
- ・株式会社富士住建「富士住建の森」森林保全活動
- ・株式会社NTN紀南製作所「NTN紀南牟婁「和」の森」森林保全活動
- ・西日本高速道路株式会社、西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社「つなぎの森」森林保全活動
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西支社「ドコモ紀の国・明恵峡の森」森林保全活動
- ・三菱電機株式会社冷熱システム製作所「みつびしでんき・有田川の森」森林保全活動
- ・西日本電信電話株式会社和歌山支店「輝きの森」森林保全活動
- ・株式会社資生堂「椿の森」森林保全活動
- ・セイカグループ「セイカの森」森林保全活動
- ・株式会社パンジー「パンジーまごころの森」森林保全活動
- ・日本たばこ産業株式会社「JTの森 中辺路」森林保全活動
- ・株式会社濱本組「はぐくむ森」森林保全活動
- ・積水化学工業株式会社「積水化学の森」森林保全活動
- ・積水ハウス株式会社「積水ハウスの森」森林保全活動
- ・ナカダ産業株式会社「ナカダ産業まったくんの森」森林保全活動
- ・全国共済農業協同組合連合会和歌山県本部「JA共済 純の森」森林保全活動
- ・新日鐵住金株式会社和歌山製鐵所「新日鐵住金 和歌山の森」森林保全活動
- ・本州化学工業株式会社「本州化学の森・日高川」森林保全活動
- ・わかやま市民生活協同組合「コーポきょうどうの森」森林保全活動（古座川町）
- ・ユニチカ労働組合「ユニチカの森」森林保全活動
- ・関西電力労働組合和歌山地区本部「関労和歌山いこいの森」森林保全活動
- ・日本労働組合総連合会和歌山県連合会「連合和歌山の森」森林保全活動
- ・日本ルナ株式会社「日本ルナの森」森林保全活動
- ・有限責任監査法人トーマツ「トーマツの森」龍神村「森林保全活動
- ・中西金属工業株式会社「NKCグループ 悠久の森」森林保全活動
- ・和歌山県オールトヨタ「やすらぎの森」森林保全活動
- ・わかやま市民生活協同組合「コーポきょうどうの森」森林保全活動（日高川町）

③ 水産業の振興

○ 漁業経営構造改革の推進

グループによる複合経営や経営統合による複船経営を行う漁業者を支援

○ 南紀白浜空港を活用した県産魚の販路拡大

「朝獲れ」「朝〆」など高鮮度の県産魚を首都圏に空輸する取り組みを促進

④ 農林水産業の担い手の育成・確保

○ 和歌山県農林大学校開校(4月)

和歌山県農業大学校を改編し、和歌山県農林大学校を開校。農学部にアグリビジネス学科を新設するとともに、林業研修部を新設し、次代の農林業を担う人材を養成

3. 観光の振興

① 和歌山の魅力を磨く

○ 「和歌山県観光振興アクションプログラム2017」を策定(4月)

○ 世界遺産 熊野古道や高野参詣道の環境保全活動を実施

・参詣道環境保全活動環境保全トレッキング(7月・10月・11月) 3回 384人

・団体等による保全活動 44団体 1,626人

- ・「10万人の世界遺産参詣道環境保全活動」12月末現在 28,010人

○ 日本遺産の充実・認定

- ・多くの文化芸術を育んできた和歌の浦に関するストーリー「絶景の宝庫 和歌の浦」と醤油造りの歴史と伝統に関するストーリー「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅が平成29年度日本遺産に認定(4月)
- ・日本遺産「鯨とともに生きる」のストーリーやエリアの観光スポットに関する情報を発信する拠点を道の駅たいじ他3か所に整備(8月)
- ・「鯨とともに生きる」のストーリーの魅力と熊野地域の素晴らしさを知っていただくためのシンポジウムを開催(11月)

○ サイクリング王国わかやまの実現

- ・サイクリストが立ち寄って、休憩や自転車のメンテナンスを行うことのできるサイクルステーションを県内68箇所に設置
- ・「わかやまサイクリングフェスタ2017」を初開催(3月)
- ・ニックネーム「WAKAYAMA800(わかやま800)」とロゴマークを決定(8月)

○ 統合型リゾート(IR)の誘致に向け、「和歌山IR推進協議会」を設立(9月)

構成員:県、和歌山市、和歌山商工会議所、民間企業、学識経験者

② 和歌山へ招く

○ 平成28年の観光入込客数は、3,487万人と2年連続で史上最高を更新(3月)

○ 「水の国、わかやま。」キャンペーン

和歌山の清らかな水をテーマに、まだ知られていない和歌山の魅力を全国に発信する「水の国、わかやま。」キャンペーンを実施(期間:平成28年7月21日~平成30年3月31日)

○ 国内の誘客を図る取組

- ・夏プロモーション(7月)
地域(市町村・観光関係団体・事業所)と協働し、夏の観光素材について、主に京阪神・西日本のメディアにアピールすることで夏季休暇中のファミリー層を中心とした誘客を促進。併せて、「サイクリング王国わかやま」、「水の国、わかやま。」についてもアピール
- ・「おとのな白浜さんぽキャンペーン」実施
日本三古湯で知られる泉質抜群の白浜温泉や椿温泉、日置川温泉のある白浜エリアを中心にお得に、楽しく周遊できるキャンペーンを実施(期間:平成29年10月1日~平成30年3月31日)
- ・「西国三十三所草創1300年」プロモーション(9月)
西日本・四国の旅行会社へ観光素材やモデルコースの提案を行い、旅行商品造成の推進に向けた取組を実施

○ プレミアムフライデーわかやま

- ・特設ウェブサイト「プレミアムフライデーわかやま」を開設(8月)

○ 外国人観光客の誘客

- ・平成28年の外国人宿泊者数は、過去最高の50万人台を達成
- ・21か国・地域をターゲットに海外プロモーション
- ・ILTMカンヌへの出展など欧米豪の富裕層をターゲットとしたプロモーションの強化
- ・増加するFIT(外国人個人観光客)の誘客を促進するため、世界的ニュースサイトや有名テレビ番組などメディアでの情報発信を強化
- ・多言語観光ウェブサイト(Visit Wakayama)に新たにドイツ語を追加し、9言語で対応(4月~)
- ・世界的旅行ガイドブック「ロンリープラネット」が最も旬な旅行先を紹介する「Best in Travel 2018」において、「紀伊半島」が訪れるべき世界の10地域のベスト5に選出(10月)

○ 南紀白浜空港の機能強化

- ・平成29年8月1日から213便・212便・219便・218便が機材大型化(76席→90席)
- ・民間事業者のノウハウを活用するため、運営事業者を公募型プロポーザル方式により募集開始(11月)。事業者決定は平成30年5月の予定

○ クルーズ客船の寄港促進

- ・県、市町村及び関係団体で構成する「和歌山県クルーズ振興協議会」を設立(6月)

③ 和歌山でもてなす

○ 外国人観光客受入環境整備

- ・「和歌山フリーWi-Fi」の推進

急増する外国人観光客等が快適に滞在できるよう、Wi-Fi接続環境の向上に取り組んでおり、9月末現在、約1,700アクセスポイントを達成

- ・多言語案内表示の整備・充実

観光地における案内表示の多言語化を実施(平成27年から3か年で約1,500箇所を整備)

- ・外国人観光客による119番通報が可能となるよう、多言語電話通訳・簡易翻訳サービスを拡充(4月～) ※10言語が利用可能で、県内観光関係事業者等119事業者が登録

- ・外国人観光客向け消費税免税店の拡充

8店舗(H26.4) → 100店舗(H27.4) → 165店舗(H28.4) → 191店舗(H29.10)

○ 観光地内公衆トイレ整備補助事業の実施

「和歌山おもてなしトイレ大作戦」から引き続き、県、市町村及び鉄道事業者等の官民が協働して、県内の公共施設(平成29年3月末:661箇所)などのトイレを重点整備

(期間:平成25年4月1日～平成29年3月31日)

〈実施内容〉

- ・洋式トイレを導入し、温水洗浄便座を設置
- ・男性用小便器の自動洗浄化
- ・オストメイト用設備の設置推進

○ 和歌山県版通訳ガイドの育成

「高野・熊野」の世界遺産エリアを有償で外国人観光客にガイドができる本県独自の観光ガイド(和歌山県版通訳ガイド)を育成・認定・登録

- ・これまでの英語に加え、中国語、フランス語、スペイン語でのガイドの育成をスタート

○ 公共交通の利用環境向上に向けた取組

増加する個人で訪れる外国人観光客がストレスなく移動できるよう交通事業者が連携し、外国人観光客にも分かりやすい多言語表記等の整備・情報発信のための共通整備ガイドを作成し、それに基づく整備を実施

4. 時代の潮流を踏まえた産業の新しい発展

① データ利活用の促進

○ 総務省統計局・(独)統計センターの一部移転に向けた協力

平成30年度から本県において統計ミクロデータ提供等の業務を開始する「統計データ利活用センター(仮称)」の設置に向け、先行的な取組として実施された統計データ利活用促進プロジェクト等に協力

- ・全国の自治体職員等を対象とした「統計データ利活用研修会」開催への協力(6月)
- ・「キッズ統計プログラミングin和歌山」を共同で開催(8月)

○ 産学官におけるデータ利活用の促進

・エビデンスに基づく行政を推進するとともに、全国にデータ利活用の重要性・有用性を発信するため、行政課題をテーマに和歌山県データを利活用した研究を全国の研究者向けに公募(3月)

・身の回りにある色々な「地域データ」を活用する方法を学ぶため、和歌山大学と共同で「わかやまデータ活用セミナー2017」を開催(8月)

○ 統計思想の普及・啓発

・統計関係者の士気高揚と統計思想の普及・啓発を図るため、平成29年度和歌山県統計大会を開催(11月)

・データやグラフを通じてふるさと和歌山を知り、統計に親しんでもらうため、小中学生を対象とした統計出前授業「統計っておもしろい！ 数字でみる和歌山」を26校で実施

② 国際化を踏まえた産業の新しい発展

○ 県産果実の輸出拡大(再掲)

米国向け柿輸出が10月に解禁され、和歌山県産柿を日本から初輸出。在ロサンゼルス日本国総領事館主催のレセプションでプロモーションを実施(12月)

- eコマース(電子商取引)の推進(再掲)
 - ・ eコマース市場への新規参入を図るためのシンポジウムを開催(7月)
 - ・ ネット販売による売上拡大、競争力強化を図るセミナーを開催(10、11月)
- ジェトロ和歌山貿易情報センターの開設(再掲)

県内企業の海外ビジネス展開を支援するため、誘致を求めていたジェトロの貿易情報センターが県庁内にオープン(10月)
- 南紀白浜空港の機能強化(再掲)

民間事業者のノウハウを活用するため、運営事業者を公募型プロポーザル方式により募集開始(11月)。事業者決定は平成30年5月の予定
- クルーズ客船の寄港促進(再掲)

県、市町村及び関係団体で構成する「和歌山県クルーズ振興協議会」を設立(6月)

VI いのちを守る

1. 自然災害への備え

①「災害による犠牲者ゼロ」の実現

○ 住宅耐震化促進の補助制度を拡充(4月)

木造住宅の補助対象を昭和56年5月以前に建築された住宅から平成12年5月以前に建築された住宅まで拡充するとともに、木造住宅耐震改修サポート事業の支援対象を希望者全員に拡大

○ 津波から逃げ切る対策の推進

・「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」に基づき、堤防整備を推進

・平成27年4月より沿岸市町・消防本部に提供している津波予報業務について、予報対象区域を県内沿岸の全18市町98か所に拡大(9月)

・「わかやま防災力パワーアップ補助金」により、避難路整備等を行う市町村を支援

○ 県内主要河川の整備

・紀の川水系貴志川圏域河川整備計画の策定(3月)

・二級河川日置川水系河川整備計画の策定(9月)

・新宮川水系熊野川圏域河川整備計画の策定(10月)

・熊野川について更なる治水安全度の向上を図るため、緊急治水対策特定区間(緊特区間)に設定し、平成29年度から概ね5年間の重点的な河道掘削等に新規着手(4月)

○ 土砂災害警戒区域等の早期指定

県内全市町村において、土砂災害防止法に基づく基礎調査を実施し土砂災害警戒区域等の指定を推進
(指定完了:4市町村)

○ 紀伊山系直轄砂防事業の新規事業化(4月)

紀伊半島大水害以降、崩壊斜面等から大量の土砂が流出している熊野川、那智川、日置川の各流域において対策を推進するため、紀伊山系直轄砂防事業が新規事業化

② 発災直後の迅速な救助体制と早期復旧体制の確保

○ 孤立集落通信訓練(1月)

大規模災害時における孤立可能性のある集落と市町村との情報伝達の円滑化に資するため、防災行政無線等の動作確認や操作方法の習熟を図る通信訓練を実施

○ 大規模地震時医療活動訓練(7月)

南海トラフ地震などの大規模災害に備え、DMAT等派遣チームの受入や患者の搬送、関連機関との連携訓練を南紀白浜空港や災害拠点病院等で実施

○ 石油コンビナート等総合防災訓練(11月)

石油コンビナート区域における地震災害時の被害に対応する訓練を実施

○ 物資輸送・災害情報収集伝達訓練(11月)

大規模災害時における救援物資の輸送等について、広域防災拠点(県立橋本体育館)を開設して救援物資の受入・搬出等を行う訓練を実施

○ 「世界津波の日」関連行事(11月)

11月5日の「世界津波の日」を中心に、県民の津波防災意識のさらなる向上を目的として、関連行事を実施

・濱口梧陵国際賞受賞者による本県(広川町)表敬訪問

・津波防災講演会の開催

・「世界津波の日」地震・津波避難訓練を実施

・「『世界津波の日』2017高校生島サミットin沖縄」に県内高校生が参加

○ 県民の命を守る水の確保

地震発生時に必要な水道水を確保するため、揺れを感じて水の流出を防ぐ緊急遮断弁を設置する市町村を支援

- 和歌山県消防学校竣工式(3月)
 - 消防職(団)員の技術力向上のため、全国初となる自然災害対応訓練施設を備え、女性消防職(団)員の受け入れにも対応した教育訓練施設が完成
- 職員参集訓練(7月、11月)
 - 南海トラフ地震など大規模災害に備え、職員の災害対応への意識を高め、迅速な初動対応に資するため、7月に緊急防災要員、11月に災害対策本部員を対象に実施日時をブラインドにした参集訓練を実施
- 災害対策本部会議運営訓練(11月)
 - 自衛隊や近畿地方整備局等関係機関が参加し、南海トラフ地震を想定した災害対策本部会議運営訓練を実施
- ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)2017において、本県の取組「紀伊半島大水害の教訓から」がレジリエンスジャパン推進協議会会長賞を受賞(3月)
- ③ 県民生活の早期再建と地域のより良い復興
- 「大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」の締結(4月)
 - 災害廃棄物処理に必要な人員や車両等を確保するため、一般社団法人和歌山県清掃連合会及び一般社団法人和歌山県一般廃棄物協会と協定を締結
- 津波災害復興計画の事前策定支援
 - 被災後の復旧・復興の遅れが県民の再建気力の喪失や、地域経済の停滞による地域活力の喪失に繋がるおそれがあることから、事前の備えとして、市町村において復興計画の事前策定を進めていくための統一手法を検討

2. 医療の充実と健康の維持

- ① 命を守る医療の充実
- 総合的ながん対策の推進
 - ・ 市町村の検診案内の個別通知による受診勧奨について市町村を支援
 - ・ 胃がん予防対策のピロリ菌検査や肺がんの低線量CT検診実施について市町村を支援
 - ・ がん検診の質の向上を図るために、医師・放射線技師など検診に携わる医療関係者に対する研修を実施
- ② 医療提供体制の再編・充実
- 地域医療構想の実現
 - 地域の医療関係者により構成される地域医療構想調整会議(医療法に基づく「協議の場」)を各構想区域(二次医療圏)単位で設置(平成28年9月)し、地域医療構想の実現に向けて病床の再編整備を推進
- わかやま在宅医療推進安心ネットワークの構築
 - ・ 在宅医療の総合窓口として「在宅医療サポートセンター」を設置し、かかりつけ医への支援体制を構築
 - ・ かかりつけ医の後方支援等を行う地域密着型協力病院の創設
 - ・ 在宅医療を担う医療従事者の養成
- ③ 医療人材の育成・確保
- 地域医療支援センター(県立医科大学に設置)の運営
 - 若手医師のキャリア形成支援や地域の拠点病院等で勤務する医師への支援、医師不足病院への対応を一元的に実施
- 不足する特定診療科医師の確保対策
 - 医師が不足する特定の診療科(産科、小児科、精神科、救急科)での勤務を条件とする研修・研究資金の貸与制度を運用し、地域拠点病院等で勤務する医師を確保
- 医療従事者の育成・確保
 - ・ 県が誘致した東京医療保健大学和歌山看護学部(和歌山市)の平成30年度の開設を文部科学大臣が認可(6月)(再掲)
 - ・ 看護師の特定行為研修受講に係る補助制度の創設
 - ・ 地域包括ケアシステムを支える看護職員の育成(訪問看護入門研修・保健師研修)

④ 健康づくりの推進

○ 健康づくり運動の展開

- ・健康づくり運動優良市町村及び健康川柳優秀作品表彰を行うとともに、健康相談や食体験等のブース展開により県民の健康意識の高揚や食育の推進を図る「わかやま健康と食のフェスタ2017」を開催
- ・健康推進員を養成することにより、地域で健診等を呼びかけるなど県民総参加の健康づくりを推進
- ・県民が手軽に楽しみながら運動習慣の定着を図れるよう、WEBサイトを活用した「わかやま健康ポイント」を開始(10月)(再掲)

3. 安全な社会の実現

○ 防犯カメラの設置推進

県内の防犯環境を整備するため、通学路や閑散地域に防犯カメラを設置する市町村を支援

○ サイバー空間における捜査力の向上

警察署に携帯電話解析装置を整備するとともに、サイバーセキュリティセンターに高度解析機器を導入

○ 歩道整備の加速化

利用状況や周辺環境に応じた整備手法を用いることで、歩道整備を加速化

○ 自転車保険への加入促進

自転車事故に備え、損害保険会社等と連携し、自転車保険の加入を促進

VII くらしやすさを高める

1. 快適な生活環境の実現

① 良好的な生活空間づくり

- 和歌山県全県域汚水適正処理構想見直し(3月)

下水道、農業集落排水施設、合併処理浄化槽等の汚水処理施設の整備をより一層効率的かつ適正に進めるため、和歌山県全県域汚水適正処理構想を見直し

- パイル担体を利用した下水汚泥の減容化実証実験(11月～)

下水汚泥の処分コスト削減のため、県工業技術センター等が開発したパイル担体を利用した、汚泥減容化の実証実験を開始

- 和歌山県動物愛護管理推進計画を策定(8月)

生活環境との調和を保ち、「人と動物が共生する潤いのある社会」の実現をめざすため、平成33年度までに犬・猫の殺処分ゼロを目指とする和歌山県動物愛護管理推進計画を策定(計画期間:平成29年度～平成33年度)

- 「不幸な猫をなくすプロジェクト」の実施

殺処分される不幸な猫や野良猫による生活環境被害の減少を図るため、地域猫対策の支援やボランティアと協働した譲渡を平成28年度から実施するとともに、新たにミルクボランティア・一時預かりボランティア・譲渡ボランティア制度を開始(7月)

- | | |
|--|---|
| ・ 猫の譲渡数:165匹(前年比2.1倍増加) |) |
| ・ 猫の殺処分:2,019匹(前年比222匹減少) | |
| ・ 地域猫対策を19市町138地域で実施:認定地域猫数:977匹、実施者数:437名(H28.4からの累計) | |

② 消費者の安全確保

- 県内市町村における相談体制の充実

県内全市町村(広域連携含む)が、消費生活相談窓口に専門的な知識及び技術を有する消費生活相談員を配置(11月)

- わかやま農産物安心プラス事業を推進(再掲)

平成29年度認証 13団体 31品目(果樹11、野菜19、米1)

③ 地球温暖化対策の推進

- 中小企業の省エネ対策を促進(再掲)

中小企業の省エネ対策を促進するため、省エネ設備の導入に要する経費の一部を補助する「中小企業省エネ対策促進事業費補助制度」を創設
・ 支援実績 19社

2. 支え合う福祉の充実

① 高齢者福祉の推進

- 介護サービスの充実

- ・ 高齢者が安心に暮らせるよう、施設等への入所を望む高齢者に対応するための施設整備等を推進
- ・ 介護が必要になっても再び自立した生活に戻れるようにするために、自立支援型ケアを推進する市町村を支援

- 認知症に対する支援

- ・ 在宅で生活する認知症の人と家族を地域で見守る認知症サポーターの養成
- ・ 65歳未満で発症した認知症の人やその家族に対して、若年性認知症支援コーディネーターの配置による支援や交流会の実施

- 高齢者の暮らしを見守る体制の充実

- ・ 地域や民間事業者による高齢者の見守り
- ・ 外出困難高齢者を支援するため、福祉有償運送を行う社会福祉法人等を支援

- 健康づくり運動の展開(再掲)
 - ・ 健康推進員を養成することにより、地域で検診等を呼びかけるなど県民総参加の健康づくりを推進
 - ・ 県民が手軽に楽しみながら運動習慣の定着を図れるよう、WEBサイトを活用した「わかやま健康ポイント」を開始(10月)(再掲)
- 第32回全国健康福祉祭(ねんりんピック)開催に向けた準備(再掲)
 - ・ ねんりんピック紀の国わかやま2019実行委員会設立総会・第1回総会を開催し、基本構想等を承認(6月)
 - [名称: 第32回全国健康福祉祭和歌山大会(愛称: ねんりんピック紀の国わかやま2019)
テーマ: あふれる情熱 はじける笑顔
会期: 2019(平成31)年11月9日(土)~12日(火)4日間、21市町で開催し、27種目を実施]
 - ・ カウントダウンボード点灯式の開催(11月)

② 障害者福祉の推進

- 障害者スポーツの推進

- ・ 延べ1,042人が参加し、第17回和歌山県障害者スポーツ大会を開催(5月、6月)
- ・ 県大会で優秀な成績を収めた選手25名が「第17回全国障害者スポーツ大会・愛顔つなぐえひめ大会」に出場し、個人競技6競技で計26個(金12、銀10、銅4)のメダルを獲得(10月)

- 障害のある人が暮らしやすい社会づくり

- ・ 点字図書館と聴覚障害者情報センターの機能を併せ持つ「和歌山県視聴覚障害者情報提供施設」をビッグ愛内にオープン(4月)
- ・ 様々な障害の特性、障害のある人が困っていることや必要としている配慮を理解し、サポートを実践する「あいサポート運動」を実施(あいサポートー2,084人養成、あいサポート企業・団体7団体認定)
- ・ 外見から障害や難病のあることが分からぬ人が周囲に援助や配慮を必要としていることを知らせる「ヘルプマーク」を交付

③ 困難な問題を抱える家庭等へのきめ細やかな対応と自立支援

- 子どもの貧困対策の推進

- ・ 「和歌山県子供の貧困対策推進計画」に基づき、子供の教育支援や生活支援、保護者の就労支援など、子供の貧困対策を総合的に推進
- ・ 多子世帯の経済的負担を軽減するため、小学校就学前までの保育料の無料化を行う「紀州3人っこ施策」を実施(再掲)
- ・ 進学意欲と学力が高いにもかかわらず、経済的な理由により大学等への進学が困難な学生を給付型奨学金により支援(再掲)
- ・ 子供食堂など食事の提供を行う民間の取組を支援(再掲)
- ・ 放課後ひとりで過ごさなければならない子供たちの居場所を公民館等に設け、学習支援等を実施(再掲)

- 里親制度の推進

様々な事情により親元で暮らせない子供を家庭で養育する里親制度を推進するため、県内2か所目となる里親支援機関を紀南地域に開設(2月)

④ 福祉人材の育成・確保

- 介護人材の育成・確保

- ・ 高校生等が介護資格を取得できるよう研修等を実施し、新規就労と介護職の定着を促進
- ・ 介護福祉士をめざす学生への返還免除付き修学資金や離職した介護職員の再就職準備金貸付を実施し、介護職場への参入を促進
- ・ 介護職員の待遇改善や事業所内保育所の整備により、介護職員の離職防止と再就業を促進

VIII 地域を創る

1. 活力と魅力のあるまちづくり

① 和歌山が誇る豊かな自然の継承

○ 和歌山県の人と自然をつなぐシンポジウム(1月)

生物多様性の保全意識の普及・向上を図るため、「自然と人とのつながり」をテーマとしたシンポジウムを県民文化会館小ホールにおいて開催

○ 第12次鳥獣保護管理事業計画策定(3月)

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき、野生鳥獣の保護管理を図るため、第12次鳥獣保護管理事業計画を策定(計画期間:平成29年度～平成33年度)

○ 世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を活用した「地域振興アクションプラン2017」を策定(6月)

「みなべ・田辺の梅システム」世界農業遺産フォーラムin東京を開催(11月)

○ 「小田井用水路」が世界かんがい施設遺産に登録(10月)

○ 南紀熊野ジオパークの発信

・南紀熊野ジオパークの活動や、ジオパークと国立公園との連携などについて、住民の理解・協力・参加を促進し、持続可能な地域づくりを推進するため、第4回南紀熊野ジオパークフェスタを古座川町中央公民館などにおいて開催(2月)

・南紀熊野エリア内における研究活動の活性化及び地質現象のさらなる解明を目的に公募し、そのうち2件に対して研究助成を開始(最長3年間)

② 和歌山が誇る文化遺産や景観の保存・保全と活用

○ 文化遺産の保存と活用

・旧和歌山県会議事堂が国の重要文化財に指定(7月)

・特徴的な海鼠壁を持つ旧紀州藩士邸長屋門を岡公園(和歌山市)に移築(3月)

○ 世界遺産 熊野古道や高野参詣道の環境保全活動を実施(再掲)

・参詣道環境保全活動環境保全トレッキング(7月・10月・11月) 3回 384人

・団体等による保全活動 44団体 1,626人

・「10万人の世界遺産参詣道環境保全活動」12月末現在 28,010人

○ 高速道路等の沿道における屋外広告物対策(5月)

高速道路等の沿道300mの範囲において原則禁止としている屋外広告物について、来県者の利便性向上等を図る観点から、新たに周辺景観と調和した、わかりやすく統一感のある案内広告物の設置基準を策定

○ 景観法に基づく届出制度の改正(5月)

景観法に基づき届出が必要となる行為について、一定規模を超える太陽光発電施設の設置を追加するとともに、「太陽光発電施設の設置に関する景観ガイドライン」を策定

③ 賑わいのあるコンパクトな都市づくり

○ 都市の活性化のための第一種市街地再開発事業を支援

・和歌山市駅前地区(鉄道事業者が駅舎等の整備と併せて、図書館、商業施設、宿泊施設等を整備)

・友田町四丁目地区(土地所有者らが病院、商業施設、住宅等の複合施設を整備)

・北汀丁地区(土地所有者らが福祉施設、専門学校、住宅等の複合施設を整備)

○ 空き家対策の促進

・平成28年に設立した「和歌山県空家等対策推進協議会」を通じて、市町村が対策を講じやすい環境整備として、空き家所有者等に適正管理を促すための県下共通の指導基準となる「特定空家等の判断基準」を策定(2月)

・空き家所有者や関係事業者向けの相談会・セミナーを開催(10月～12月 計5回)

- ④ 個性豊かで暮らしやすい中山間地域づくり
- わかやま版「過疎集落支援総合対策」を推進
　住民生活の一体性を重視したふるさと生活圏を対象に、日常生活機能の確保や地域活性化を総合的に図る取組を支援
- ◇ 平成29年度事業実施生活圏 2町2生活圏
　・新城(しんじょう)生活圏(かつらぎ町)
　・志賀野(しがの)生活圏(紀美野町)
※七川(しちかわ)生活圏(古座川町)、近野(ちかの)生活圏(田辺市)で事業実施に向け協議中
- ◇ 国事業(総務省)の活用 1市1生活圏
　・清水・西畠(しみず・にしほた)生活圏(橋本市)
- 半島振興対策促進大会を東京で開催(11月)
半島地域の個性ある自立的発展を図るため、全国の半島関係者が都市センターホテル(東京都千代田区)に集まり、関係国会議員や関係省庁に対し、要望活動を実施
- 「わがまち元気プロジェクト」を展開
　地域の特色ある資源を発掘し、活用することで地域振興につなげる「わがまち元気プロジェクト」を推進
(平成29年度実施中のプロジェクト)
　・有田川“ぶどう山椒”Connectプロジェクト(有田川町 平成29～31年度)
※下記4プロジェクトも継続事業として実施
　・いなみの魅力発信！『地産外商』プロジェクト(印南町 平成28～30年度)
・「オリンピック新種目スポーツクライミングでスポーツのまちづくり」プロジェクト
(みなべ町 平成28～30年度)
・山の恵みとして活かす！「古座川ジビエ」プロジェクト(古座川町 平成27～29年度)
・里山の魅力発信！「川原げんき村」創造プロジェクト(紀の川市 平成27～29年度)
- わかやま移住定住大作戦の展開
若年移住者への奨励金の交付や、地域資源を活用した起業支援、空き家情報の集約・提供など、「くらし」「しごと」「住まい」の3つの側面からサポートすることで、和歌山への移住を促進
- ・県内全市町村に、移住に関する相談に対応する担当職員「ワンストップパーソン」を配置
　・移住者継業支援の開始
　後継者を求める事業主と意欲ある県外からの移住(希望)者をマッチングし、地域の”なりわい”に移住者ならではの新たな視点を加えて再活性化する「継業」を支援
　・わかやま”和み”暮らし現地体験会
　　実施期間 1月28日～12月10日 計10回
　　場所 県内21の移住推進市町村で開催
　・わかやま移住・就職フェア(7月、11月)
和歌山への移住を希望する首都圏等の方々を対象に、県内市町村及び民間事業者による移住に関する「くらし」、「しごと」、「住まい」についてのPR及び相談対応を実施
【東京会場】7月8日 場所:東京交通会館(東京都千代田区)
【大阪会場】11月12日 場所:グランフロント大阪(大阪市北区)
　・ふるさと回帰フェアへのブース出展(7月、9月)
和歌山県の魅力や「くらし」、「しごと」、「住まい」についてのPR及び相談対応を実施
【大阪会場】7月29日 場所:大阪マーチャンダイズ・マートビル(大阪市中央区)
【東京会場】9月10日 場所:東京国際フォーラム(東京都千代田区)
- 大学のふるさと
都市部の大学が県内市町村と連携し、交流を通じた地域活性化に資する実践活動を行えるよう県がマッチングして連携協定を締結
　・高野町・近畿大学(2月)

2. 地域をつなぐネットワーク

○ 道路網の整備

- ・一般国道424号(木津バイパス)供用開始(3月)
- ・京奈和自動車道 紀北西道路(岩出根来IC～和歌山JCT)供用開始(3月)
- ・一般国道168号五條新宮道路(相賀高田工区)新規事業化(3月)
- ・第二阪和国道(淡輪ランプ～平井ランプ)供用開始(4月)
- ・一般国道480号鍋谷峠道路供用開始(4月)
- ・一般国道424号(清川工区)全線供用開始(10月)

○ 次世代に向けたプロジェクトの推進

堺市にて、シンポジウム「国土の強靭化と交通インフラ」(和歌山県、徳島県、堺市共催)を開催し、紀淡海峡ルートの必要性についてPRを実施(1月)

○ 南紀白浜空港の機能強化と利用促進(再掲)

- ・平成29年8月1日から213便・212便・219便・218便が機材大型化(76席→90席)
- ・民間事業者のノウハウを活用するため、運営事業者を公募型プロポーザル方式により募集開始(11月)。事業者決定は平成30年5月の予定

○ 特急くろしお号の利用促進

JR西日本の平成30年3月のダイヤ改正(白浜～新宮駅間における特急くろしお号1往復減)発表を受け、地元自治体、経済団体、JR西日本と協力し、職員の出張・通勤での利用、『特急「くろしお」号に乗つて和歌山・紀南へ行こう！キャンペーン』による誘客など、利用者数回復とそれによる列車の増発を目標とした利用促進に取り組むことを発表

○平成18年12月以降の本県への企業立地動向

企業名	立地場所
1 アイコム(株)	紀の川市
2 (株)NTN	上富田町
3 (株)松源	和歌山市
4 ペトロマテリアル(株)	和歌山市
5 アトラック(株)	橋本市
6 エアウォーター(株)	和歌山市
7 本州化学工業(株)	和歌山市
8 荊盛堂薬品(株)	和歌山市
9 恵和(株)	印南町
10 (株)タカシヨー	海南市
11 原田織物(株)	橋本市
12 (株)スミロン	日高川町
13 (株)オークワ	和歌山市
14 (株)ユアブレインズ	和歌山市
15 ビーウィズ(株)	和歌山市
16 恵和(株)	御坊市
17 大輪産業(株)	橋本市
18 (株)アルパック	橋本市
19 亀宝倉庫(株)	和歌山市
20 (株)NMソルト	和歌山市
21 南海化学(株)	和歌山市
22 ミナベ化工(株)	みなべ町
23 パナソニック(株)AIS社	紀の川市
24 辻岡運輸(株)	和歌山市
25 新日鐵住金(株)	和歌山市
26 和興建産(株)	和歌山市
27 太陽食品(株)	和歌山市
28 極東化成工業(株)	岩出市
29 尾高ゴム工業(株)	紀の川市
30 関戸運輸(株)	和歌山市
31 アドバン工業(株)	和歌山市
32 (有)久保田エンジニア	紀の川市
33 (株)ホタニ	紀の川市
35 (株)エスアールアイ	海南市
36 ペトロマテリアル(株)	和歌山市
37 東京製綱(株)	和歌山市
38 セイカ(株)	和歌山市
39 (株)マルテン天満屋	日高川町
40 (株)コズミックランド	白浜町

企業名	立地場所
41 大阪富士工業(株)	和歌山市
42 笠野興産(株)	和歌山市
43 (有)コバタ総合研究所	橋本市
44 田辺金属工業(株)	田辺市
45 朝日オリコミ和歌山	和歌山市
46 (株)中井鉄工所	橋本市
47 (株)しんこう技研	紀の川市
48 旭精機(株)	橋本市
49 (株)NMソルト	和歌山市
50 木本産業(株)	有田市
51 尾高ゴム工業(株)	紀の川市
52 太洋工業(株)	和歌山市
53 住友精密工業(株)	和歌山市
54 花王(株)	和歌山市
55 エアウォーター(株)	和歌山市
56 南海化学工業(株)	和歌山市
57 (株)三晃精密	橋本市
58 (株)ふみこ農園	有田市
59 (株)テクノ・アシスト	紀の川市
60 棒引製材	みなべ町
61 白光印刷	和歌山市
62 林化成(株)	橋本市
63 (株)見果てぬ夢	田辺市
64 大日本除虫菊(株)	海南市
65 共同印刷(株)	有田川町
66 花王(株)※研究施設	和歌山市
67 紀和化学工業(株)	紀の川市
68 三菱電機(株)	和歌山市
69 日建産業(株)	御坊市
70 豊国金属工業(株)	橋本市
71 ミナベ化工(株)	みなべ町
72 (株)ニッコク	岩出市
73 紀州ファスナー工業(株)	御坊市
74 (株)九重雜賀	紀の川市
75 (株)丸徳水産	和歌山市
76 ハグルマ(株)	紀の川市
77 藤本製薬(株)	御坊市
78 北広ケミカル(株)	橋本市
79 ヤマトコンタクトサービス(株)	和歌山市
80 日進化学(株)	橋本市

	企業名	立地場所
81	スターゼン西日本販売(株)	和歌山市
82	(有)日本鮪養殖	那智勝浦町
83	(株)串本マリンファーム	串本町
84	南紀串本水産(株)	串本町
85	東京製綱(株)	和歌山市
86	川口水産(株)	有田市
87	和歌山ガーデンクリエイト(株)	海南市
88	(株)ケー・ワイ・ビー	紀の川市
89	(株)イブバイオサイエンス	橋本市
90	中紀精機(株)	御坊市
91	(株)エス・ティー・ワールド	和歌山市
92	(株)赤井工作所	岩出市
93	(株)ユニカル	橋本市
94	クックスペスト(株)	那智勝浦町
95	(株)ゼネラルステッカー	田辺市
96	ナイス(株)	和歌山市
97	松林金属(株)	橋本市
98	(株)インテリックス	和歌山市
99	中部抵抗器(株)	紀の川市
100	富士香料化工(株)	橋本市
101	岡村製油(株)	橋本市
102	理工協産(株)	橋本市
103	(株)たにぐち	日高川町
104	川本化成(株)	和歌山市
105	(株)玉林園	和歌山市
106	(株)丸阪	橋本市
107	藤本食品(株)	岩出市
108	小川工業(株)	橋本市
109	北辰精工(株)	橋本市
110	(株)フューチュレック	海南市
111	(株)河鶴	みなべ町
112	橋電装工業(株)	和歌山市
113	(株)紀山	紀の川市
114	紀南パンジー(株)	上富田町
115	菱岡工業(株)	和歌山市
116	EH製菓(株)	田辺市
117	(株)エムジエイティック	橋本市
118	中辻産業(株)	橋本市
119	真和テック(株)	橋本市
120	ナカザワ建販(株)	紀の川市

	企業名	立地場所
121	東研サーモテック(株)	橋本市
122	(株)ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング	和歌山市
123	(株)山登化学	橋本市
124	大和歯車製作(株)	日高川町
125	南海スチール(株)	和歌山市
126	(株)九重雜賀	紀の川市
127	(株)竹中商店	田辺市
128	(株)プリントテクニカ	橋本市
129	メディスト(株)	白浜町
130	(株)興栄ケミカル工業所	橋本市
131	(株)早和果樹園	有田市
132	(株)インテリックス	和歌山市
133	中紀精機(株)	印南町
134	笠野興産(株)	和歌山市
135	太陽シールパック(株)	和歌山市
136	(株)ポタジエ	紀の川市
137	(株)サンコー	海南市
138	尾高ゴム工業(株)	紀の川市
139	(株)セールスフォース・ドットコム	白浜町
140	(株)梅丹本舗	紀の川市
141	ライオンケミカル(株)	和歌山市
142	旭精機(株)	橋本市
143	(株)西日本建設物流	和歌山市
144	和歌山太陽誘電(株)	印南町
145	日本遠隔制御(株)	橋本市
146	クオリティ(株)	白浜町
147	毎日マーク(株)	橋本市
148	光栄ピーナッツ(株)	橋本市
149	デュプロ精工(株)	紀の川市
150	前田ロープ工業(株)	海南市
151	(株)食緑	新宮市
152	(株)寿精密	かつらぎ町
153	(株)サンオー	和歌山市
154	北広ケミカル(株)	紀の川市
155	澤田酒造(株)	橋本市
156	(株)菖蒲谷	湯浅町
157	ナギサビール(株)	白浜町
158	(株)インテリックス	和歌山市
159	NECソリューションイノベータ(株)	白浜町
160	(株)TREE	白浜町

※太線枠内は、平成29年立地企業